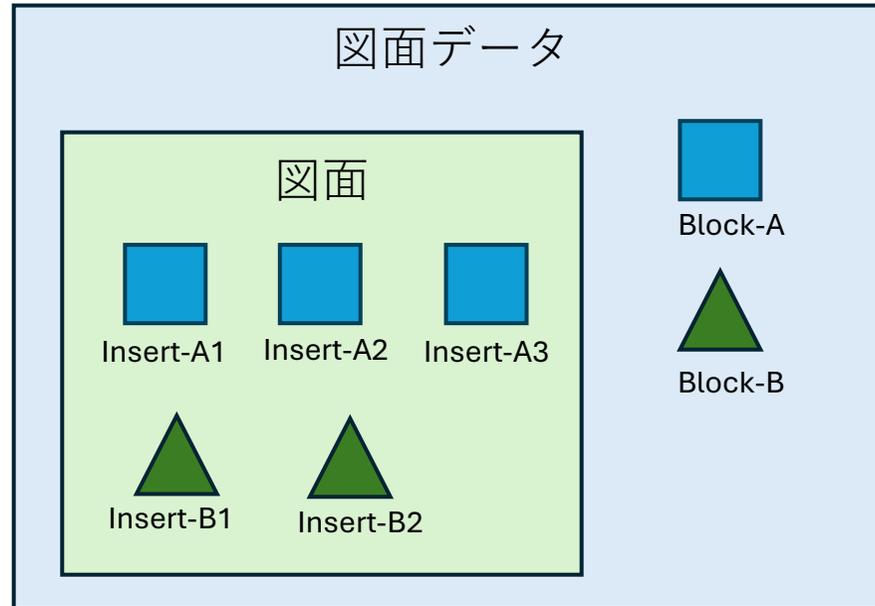


ブロックはどこにいる？（ブロックを挿入する方法いろいろ）

結論から言いますと・・・ブロックを作成した図面データの中にいます。
下図のようなイメージです。



図面上に挿入されたブロックは、正式には「Block」ではなく「Insert」と呼ばれるオブジェクトのようです。日本語では「ブロック参照」と言うみたいですがどうもしっくりしませんね。これは、図面上に描画されているブロックの本体は図上ではない図面データの中にいて、図面上のブロックはその本体を参照して描画しているだけということからくる名称なのだと思います。

「Block(ブロック本体)」の情報と、「Insert(ブロック参照)」の情報は別々に管理されています。少しややこしいですが、わたくしは以下のようにイメージしています。

ブロック情報 : インサートを描画するために必要な情報とインサートへのリンク情報
インサート情報 : 描画された結果としての図形情報とブロックへのリンク情報

※ ここではまだ、属性やアクションなどのパラメータには触れません。もう少し後で・・・。

これを踏まえたうえで、作成したブロックの挿入方法の色々を考えてみましょう。

■ ブロック参照の挿入方法

ブロック参照の挿入を理解するうえで大切なのは、「ブロック／Block」と「ブロック参照／Insert／インサート」の違いを正確に把握することだと思います。そういう意味では、「ブロックの挿入」という言葉は、非常にその理解を妨げる表現であると個人的には思っていますが、一般的には「ブロックの挿入」という表現が使われています。正確には「ブロック参照の挿入」というみたいですが、なんだかしっくりこない言葉ですね。以降、「ブロックの挿入」と書いてあっても「ブロック参照の挿入」のことなんだなと思ってください。

ブロックの挿入方法は、いろいろと用意されています。「こんなに必要？」と思うかもしれませんが、用途に応じて使い分けでみてください。（同一図内でのコピーは、対象としません。）

- (1) 現在の図面から挿入
- (2) 最近使用したブロックを挿入
- (3) お気に入りから挿入
- (4) ライブラリから挿入
- (5) ツールパレットから挿入
- (6) デザインセーターから挿入
- (7) 他図面のブロックをクリップボードにコピーして貼り付け（挿入じゃない？かも・・・）

他にも方法があるかもしれませんが、上記7つの方法について説明します。

(1) 現在の図面から挿入

現在の図面にて作成したブロックをブロック参照として挿入するには、[ホーム]リボン-[ブロック]パネル-[挿入]ボタン、[挿入]リボン-[ブロック]パネル-[挿入]ボタンなどでブロック選択画面を開き、ブロック参照として挿入したいブロックをドラッグ&ドロップします。

[オプション]

- 基点(B) : 挿入時に一時的に挿入するブロックの起点を変更します。
(ドロップしようとしているブロックが現在描画されているモデル空間座標における座標を新基点として入力しなければならないため、個人的には使いにくいと感じる機能です。)
- 尺度(S) : 挿入するブロック参照のサイズをブロックに対するXYZ軸方向の尺度(倍率)にて指定します。
(ブロック作成時に、XYZ尺度を均一に設定している場合はXYZ 同じ尺度になります。)
- 回転(R) : ブロック参照を反時計回りの回転角度にて回転させて挿入します。
- 分解(E) : ブロックを分解した状態で挿入します。
(ブロックがネストされている場合は、最上層のみ分解されます。)
- 繰り返し(RE) : 連続して同じブロック参照を挿入可能にします。尺度と回転のオプションを有効にすることで、個々に同パラメータを指定可能です。



ブロック挿入ボタンクリック時

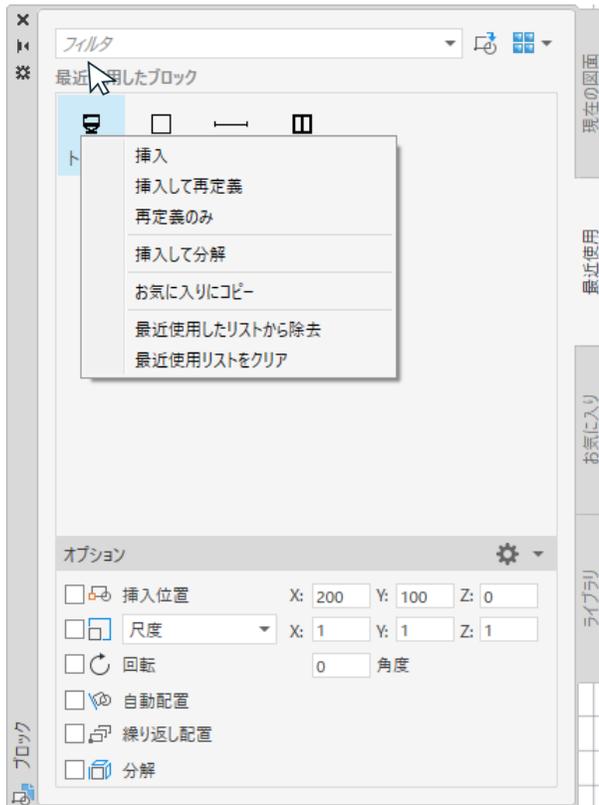


ブロック挿入時のオプション

(2) 最近使用したブロックを挿入

(1) にて 挿入ボタンをクリックしたときにプルダウン表示されたメニューの下のほうに「最近使用したブロック…」 「お気に入りのブロック…」 「ライブラリのブロック…」 の3行があったと思います。

「最近使用したブロック…」 をクリックすると、下図のような ブロックパレットが表示されます。



ブロックパレット

最近使用したブロックが一覧表示されますので、挿入するブロックを選択し、右クリックにて表示されるメニューから「挿入」をクリック、または、ドラッグ&ドロップにてブロック参照を挿入します。

[オプション]

挿入位置 : 挿入位置の「座標指定／ドロップ位置にて指定」を切り替えます。
(右クリックからの「挿入」時に「座標指定」が有効になります。)

尺度 : 挿入時の尺度(倍率)の指定の「有効／無効」を切り替えます。
XYZ尺度を均一にする設定も可能です。
(ブロック作成時にXYZ尺度を均一設定したブロックは、XYZ別設定はできません。)

回転 : 挿入時回転の「角度指定／挿入時指定」を切り替えます。
(挿入時指定は、角度入力／マウス操作 の両方が可能です。)

自動配置 : 有効にすると、カーソルの動きに追従して挿入位置候補がマーカーで示されるのですが、個人的には使い方が悪いのか「使えない」機能です。

繰り返し配置 : 有効にすると、連続したブロック挿入が可能になります。

分解 : 有効にすると、ブロックが分解された状態で挿入されます。

「右クリックメニュー」について補足します

- 挿入 : 選択中のブロックを挿入します
- 挿入して再定義 : 挿入するブロックと同一名称のブロック定義が図内に存在するとき、ブロックを挿入と同時に**再定義**します。
- 再定義のみ : 選択中のブロックと同一名称のブロック定義が図内に存在するとき、ブロックを**再定義**します。
- 挿入して分解 : ブロックを分解した状態にて挿入します。
- お気に入りにコピー : 選択中のブロックをお気に入りにブロックリスト内にコピーします。
- 最近使用したリストから除去 : 選択中のブロックを最近使用したブロックリストから削除します。
- 最近使用したリストをクリア : 最近使用したブロックリストのブロックをすべて削除します。

[※ 再定義の詳細についてはこちらを参照ください。](#)

■「最近使用したブロック」はどこにいる？

冒頭、ブロック（ブロック定義）は図面データ内にいると記しましたが、「最近使用したブロック」のブロック定義は図面データ内にはありません。

「最近使用したブロック」のブロック定義は、AutoCAD 2025 の場合 デフォルトで以下に記憶されます。

C:\%Users%ユーザー名\AppData\Roaming\Autodesk\AutoCAD 2025\R25.0\jpn\RecentBlocks

この場所は変更可能で、[オプション]ダイアログ - [ファイル]タブ - [ブロック同期フォルダの場所] にアクセス可能な任意のフォルダを設定することで実現します。（上記フォルダの、“C:\%Users%ユーザー名\AppData\Roaming\Autodesk\AutoCAD 2025\R25.0\jpn” までの部分を新しく指定します。その下位に フォルダ“RecentBlocks” が自動的に作成されます。）

この場所に サポートされているクラウドストレージプロバイダ（Autodesk Docs、Autodesk Drive、Box、Dropbox、Google Drive、Microsoft OneDrive）を使用すれば、Webおよびデスクトップで同一の「最近使用したブロック」にアクセスすることができます。

※ [ブロック]パレット - [最近使用]タブにて、ブロックアイコンにカーソルを合わせると表示されるブロック定義の情報が表示されます。その中に、ブロックへの「パス」が表示されますが、これは、ブロックが使用されたときの図面へのパスが表示されるようです。ですが、実際は上記の[ブロック同期フォルダ]に記憶したブロック定義をもとにブロック参照を挿入するため、同図面ファイルが削除されていても、ブロック参照は問題なく挿入されます。

